

9月9日(火)のロシア株式市場の急落について

HSBC投信株式会社

ロシア株式市場は9月8日(月)に+2.67%と反発したものの、9日(火)には再び大幅に下落に転じ、RTS指数の同日の終値は前日比-7.51%の1,395.11と約2年3ヶ月ぶりの低い水準を付けました。ガスパロムが前日比-8.47%、ルクオイルが同-9.29%、ノリリスクニッケルが同-12.76%、ズベルバンクが同-10.18%となるなど、特にエネルギー、素材、銀行セクターが冴えない動きとなりました。

今回の急落の背景としては以下が挙げられます。

- ① OPEC総会で有力出席者が原油生産枠の据え置きの可能性を示唆したことなどから、原油価格(WTI)が時間外取引で急落したこと、
- ② 今後の世界需要の低下見通しから、この7月末からの約1ヶ月間で国際商品市況の代表的な指標であるCRS商品指数が約-12%となるなど金属価格も大幅に下落していること、
- ③ 8日(月)、ロシアの連邦反独占局がガスパロムが独立ガス会社にガスパロムのパイプラインの使用を認めていないことを問題にしたほか、現在検討中の原油関連の減税案についてクドリン財務相がこれ以上の減税枠の拡大はないと発言するなど、大手エネルギー企業にとってマイナスの材料が相次いだこと、
- ④ 8日(月)にサルゴジ仏大統領とメドベージェフ大統領との会談でロシア軍の1カ月以内の撤退合意があったにもかかわらず、9日(火)にはロシアは南オセチア、アブハジアとの国交を樹立し、さらにロシア国防相は両地域にそれぞれ3,800人のロシア軍を駐留させると同日発表するなど、ロシア側が譲歩の姿勢を示していないこと、
- ⑤ 一方、ブッシュ米大統領が、8日(月)、ロシアとの原子力協定を凍結すると米議会に通告するなど、欧米の対ロシア強硬姿勢がさらに強まったこと。

※ 末尾の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」を必ずお読みください。

ロシア株式市場は、政治的リスクの高まりによる外資の流出や、原油など資源価格が下落基調にあることなどから、当面、下値を探る不安定な展開が予想されます。しかし、グルジア紛争についてロシアと欧米との間で何らかの妥協の見通しが出てくるにつれ、投資家の関心は内需主導の経済成長、巨額の外貨準備高や豊富な予備基金、企業の高い予想利益成長率などの“ロシア経済の実力”に焦点が移っていくものと思われます。当社は、現在のロシア株式市場は過小評価されていると見ており、中長期的にはロシア株式市場は引き続き有望と考えています。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社と言います)が情報提供を行う目的で作成したものであり、特定の投資信託等の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は法令に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載された市場の見通し等は作成時点での当社の見解であり、今後予告なしに変更されることがあります。また、当資料に記載された当社の見解等は、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。